

文部大臣奨励賞受賞作品

メダカの生活となわばりの研究Ⅱ — 攻げき行動をおこす目的は何かを中心に —

福井大学教育学部附属小学校

六年 平井 亜紀

●研究のきっかけ 5年の一学期に理科で「魚の育ち」をならった。この時、なわばり行動やオスやメスの行動のちがいをみて、とても人間くさいのにおどろき、続けて観察をしていった。(中略)

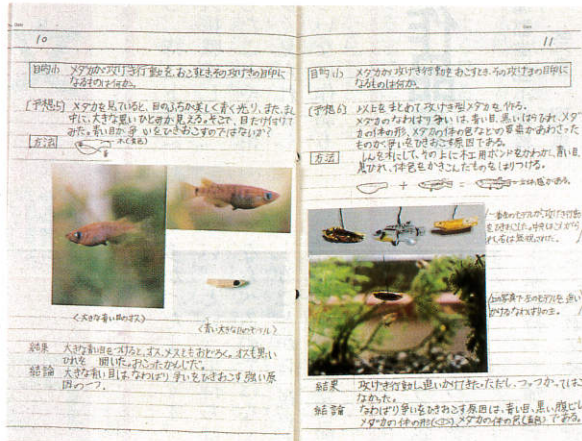
今年、昨年に続いてさらになわばりについて残された問題を深めたいと思い、家の中に60cmの大型水そうをおき、水の流れを作ったり、水草を植えたりして、自然状態に近くして、観察した。

●研究の目的 (1)メダカが攻げき行動をおこすとき、その攻げきの目的になるものは何か？

(2)メダカのなわばり争いは、何を守ろうとしておきるのか？
(3)メダカのなわばり争いで、よい場所をとるオスの条件は何か？
(4)メダカのなわばりのできやすい水そうの条件は何か？

●感想(抜粋)

○今までの水そうは、水流がほとんどなかったため、なわばりもあまりはげしくなかったが、今年の水そうは大型で広く水量



▲研究の視点を明確にして、詳細な実験をくり返し、メダカの生活を深く調べているすばらしい作品。また、実験の結果が考察に生きていておもしろい。

も多く、また水流もあるので、あちこちにわばりができ、またはげしいとくみあいが毎日のようにおき、おもしろい観察ができた。自然状態に近いといんだなあと考えた。

○よく食べ、よく動き回ると、メスはメスらしく、オスはオスらしくなるなあと考えた。自然なかん境」というのは、とても大切なことだと思った。○朝、明るくなつた時に、いきなりなわばり行動が強まるのを見た時、とてもすごいのでおどろいていた。そして、あちこちで交尾が見られ、本当にすごかった！また、植物に光が大切なことは知っていたが、動物にとっても、光というものがこんなに重要なんだということを、はじめて知った。

○メダカは20%以上大きかったり、形がかわつたものであると、けいかい心のほうが強く、よつてこない。この原因はきつとメダカが弱い生き物であるため、攻げきよりも、けいかい心の強い方が、生きのびるには都合がいいからだろうと思う。

入賞者発表

作文部門

■最優秀賞

「せみのだつび」 (愛知・蒲郡南部小三年 荒島理恵)

■優秀賞

「あかい水」 (兵庫・愛徳学園小二年 内田裕美子)

「よつちくん、ごめんね」 (宮城・古川第二小三年 佐々木由佳)

「ぼくの生まれた家」 (愛知教育大学附属岡崎小四年 土田潤)

■優良賞

「ゆたかさつてな」 (福岡・江川小二年) 堤政治「おにいちゃん」 (宮城・古川第二小三年) 松田直樹「大きなハルおばあちゃん」 (大阪・南田小三年) 忠田愛「私の願い」 (福岡・西戸崎小五年) 信川亜紀

■佳作

「かたたき」 (青森・千歳平小一年) 相内美和子「リレーのせんしゅ」 (千葉・国分小二年) 篠田恵理沙「カエル」 (東京・日本女子大附属豊明小四年) 石原沙織「九十四羽づる」 (鹿児島・吉野小五年) 前田美那子

「卓球での喜び」 (宮城・中新田小六年) 山田聖「私たちの生活と自然」 (東京・五日市小二年) 橋本由佳「千羽鶴を返せ」 (岡山・清心中二年) 江原久美子「食生活における安全」 (熊本・西合志南中二年) 小財明

「ハトと家族」 (愛知・安城西中三年) 石川清啓「わたし達は何人ですか？」 (岡山・清心中三年) 大谷万希子

読書感想文部門

■最優秀賞

永遠に……ジョニー 「ジョニーは戦場へ行った」 を読んで (大阪教育大学附属天王寺中三年 尾藤康行)

■優秀賞

「くもの糸」 を読んで (兵庫・愛徳学園小五年) 寅屋満起子

「星野さんの私」 (大阪・金岡小六年) 藤原麻季

「車と私の思い出」 (岐阜・瑞浪中一年) 伊佐佐孝子

■優良賞

「がまんがまんどうんち」 を読んで (愛知教育大学附属岡崎小一年) いしかわあき「とべないホテル」 (福井大学附属小三年) 森

映理奈「注文の多い料理店」 を読んで (北海道・富沢小六年) 高橋明

里「ガラスのうさぎ」 を読んで (東京・千寿小六年) 城本貴教「あるがま

まに生きる」 (TUGUMI) を読んで (岡山大学附属中三年) 那須寛子

■佳作

ひとりぼっちになったアサ「ぼくはおこった」 を読んで (愛知教育大学附属岡崎小一年) 榎原理海子「子どもきんたけ話」 を読んで (兵庫・愛徳学園小二年) 温井恵美「マヤの一生」 を読んで (福井大学附属小三年) 三輪麻都良「つるになったおじさん」 (千葉・中山小四年) 石渡明日香「ごんきつね」 を読んで (愛知教育大学附属岡崎

後援団体特別賞受賞作品

日本児童文芸家協会

会長賞

わたしのおじいちゃん

東京都新宿区立余丁町小学校

二年 茂木 有理子

わたしのおじいちゃんは、しずおかのかけ川というところにすんでいます。今年で七十一才です。頭には白い毛もあるし、はもぬけて入ればにしているところもあります。でも、しせいはよくて、いつも『ピーン』とせ中をのばしていて、顔はやさしくニコニコしています。

わたしは、今年、一人で、おじいちゃんのおうちに八日間とまりました。その時、ますます、おじいちゃんがすきになりました。だって、おすもうをとつてくれたり、ねる時にうちわでわたしをあおいでくれたり、足をなでてくれたり、一ばんうれしかったのは、毎日、ねる時に作り話をしてくれたことです。

おじいちゃんは、お話をしてくれる時、いつも、「むかし、むかし……」

ではじまります。わたしは、心の中で、『あつ、今日もやっぱり、むかし、むかしではじまったな』と思って、わらいたいのを『ぐつ』がまんします。でも、それを聞きはじめるとふしぎふしぎ、とってもいい気もちになってすぐねてしまいます。おじいちゃんとするすもうは、いつも、

「はつきよい、のこったのこった。」

※はつきよい=はつけよい

ではじまって、

「有理ちゃんはずよいなー、おじいちゃん、まった。まいった。有理子山のかちー。」

でおわります。わたしをいつもかたせてくれるおじいちゃんって、やさしいでしょ。

おじいちゃんと、お話をしたり、あそんだりするとむかしのことをたくさん知ることができます。

わたしが生まれるずっと前に、大地しんがあたり、せんそうがあつたりしてみんながとってもかなしい思いをしたことも時々話してくれるので、わたしは、その時、『ふうーん。そんなことが今もおきたら、大へんだし、こわいな』と思ってふるえてしまいます。

だから、今のまま、『みんながしあわせにくらせるといいな』と思います。

おじいちゃんは、わたしがほしいなと思うものは何でも買ってくれます。でもその時はいつも、「よく考えて買いなさい。今、本当にひつようかな。」と聞きます。

わたしは、『じっ』と頭の中で考えて、「うん、ひつようだヨ。」

というと、

「そうか。有理ちゃんがそういうならきつとそうだね。」

といって買ってくれます。でも、わたしは、買ってもらったあともう一ど考えて、

「おじいちゃん、どっちだかわからなくなっちゃった。」

というと、

「あつそうかい。でもいいさ。有理ちゃんが自分で考えてきめたんだから。」

とニコニコわらっています。

わたしは、その時のおじいちゃんの顔を見てとつても、うれしくなって、何だかむねが『じーん』としてしまいました。

おじいちゃんのおぐせは、

「よく考えること。しせいをよくすること。ぎょうぎに気をつけること。きちんとへんじをすること。」です。

いつもの、おじいちゃんは、おばあちゃんと二人で、おさんぽをしたり、お花をそだてたり、しやうぎをしたりしています。

わたしは、とまっている間、おじいちゃんとかよくあそんだり、けんかもしたりしたけど、おじいちゃんが大きいです。

わたしが、帰る時、おじいちゃんは、

「早く冬休みになるといいね。おじいちゃんもおばあちゃんも楽しみにしているよ。」

といって、ぎゅつと手をにぎってくれました。わたしも、ぎゅつとにぎりました。

その時のおじいちゃんの手は、とっても、あつたかかった。

わたしの大すきな、おじいちゃん、おばあちゃん、いつまでも元気でいて下さい。

選評

何げない会話から、「おじいちゃん」のすばらしさがうかがえます。「おじいちゃん」への思いが、ほのぼのと伝わってくる作品です。

つわものどもの夢の跡

愛知県名古屋市中立猪高中学校
三年 久保 妃呂実

●研究の動機

静岡市に住んでいた中学一年生の時、丸子城跡について調べて新鮮な印象を受けました。(中略)「中世・戦国期の城跡を訪ねてみよう」と思いこの研究に取り組みました。城跡を訪ね、そしてその歴史を調べていくうちに、一つ一つの点から一つの大きな流れが、見え始めてという感じがします。

古城めぐりを始めて一年余りたった時、名古屋へ引越すことになりました。「せっかく見え始めた流れを、中断させたくない」と思い、今度は愛知県内の城跡を見学して歩きました。

駿河、遠江、三河、尾張、ここには、中世期、戦国期の大きな流れが中断されることなく、一つの物語を作っているような気がしました。

●分かったこと

今川氏は、清和源氏の流れをくみ、源義康が下野の国、足利に住み足利氏を名のり、足利氏は、三河国守護職を勤めたためその一門は、三河国に多く根づいた。その当時は、居住した土地名を姓にした。吉良・一色・細川・仁木などがある。今川氏は、それら足利一族と同門で、「將軍家が絶えた後は、吉良家と今川家が跡を継ぐ」と言われた名門。

●研究を終えて

城は、領土拡大の、点から線や面に移るための重要な基地であり、中世・戦国期は、築城と争奪の繰り返しだったようです。

城跡を地図の上から見た時、その地に実際に立つてみると、その地点がいかに重要な場所だったかというのが分かり、感心させられた。

二年半の間、足で調べた城跡を、一つの流れとして捉えることが出来たことは、私にとって大きな収穫でした。

城跡とは、まさに「つわものどもの夢の跡」でした。

＜目次＞

I 序論	
1. 研究の動機	2
2. 疑問と予想	3
3. 具体的な調べ方	5
II 本論	
1. 駿河から尾張へ	8
(1) 今川氏のおこり	
(2) 今川氏代々当主と領土拡大	
(3) 滅亡	
2. 武田氏と今川氏のかかわり	91
3. 武田氏の今川領侵略	94
— 武田・徳川抗争	
III 結論	
1. 分かったこと	125
2. 私が感じたこと	131
3. これから調べていきたいこと	136
IV 巻末	
1. 私が歩いた城跡	138
2. 城について	139
3. 年表	148
4. 参考文献、お世話になった方々	149
5. 研究を終えて	150



長期に渡って、一つの主題を追い続けた本格的な研究論文です。内容も深く、大変よくまとめられています。



ひよこのおとうさん

青森県八戸市立吹上小学校
一年 黒沢 吉伸

にわとりのお父さんとひよこたちを、自分たちの生活におきかえながら、想いをまとめてかいた絵です。ひよこたちを心配しながら逃げまわるお父さん。何かを相談しあっているひよこたち、など、吉伸君のかきあらわしたかったお話が読みとれてきて、とても楽しい絵です。

全国中学校理科教育研究会会長賞

煙草の煙害を探る

茨城県つくば市立並木中学校
一、二年 科学部

もくじ

1 はじめに	6
2 昨年の研究成果	9
3 今年度の研究課題	18
(1) 課題設定の理由	18
(2) 課題解決の方策	20
(仮説から検証へ)	
4 研究の流れ	26
5 各研究班による研究報告	27
A 性質班からの研究報告	28
A-1 ~ A-4	
B 植物班からの研究報告	76
B-1 ~ B-4	
C 動物班からの研究報告	112
C-1 ~ C-4	
6 研究班における	
研究報告の総括	165

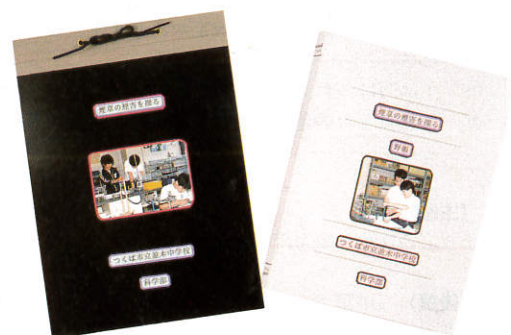
●はじめに 昨年の研究で、煙草に関する一般的な知識をある程度把握することができたので今年度は、さらに一歩進めて社会生活に役立つような研究にしたいというのが、私達部員の総意である。

(中略) 喫煙者の隣にいても副流煙にむせることもなく、手

で払いのけることもない清潔な環境——そのような快適ライフを脳裏に描きながら、本年度の研究に着手した。

●考察(抜粋) 煙草の煙は“気体成分”と“粒子成分”があり、粒子成分は身体に付着するとヤニとなって呼吸器にまで入り込み、肺を侵す。もちろん気体成分も肺に取り入れられれば、酸素の供給やガス交換を潤滑に行うことができなくなる。それなら、換気をよくして煙草の煙を吸い込む前に、新鮮な空気が得られるようにすればよい。そのため喫煙者には換気扇のある部屋での喫煙を勧めたい。

煙草の煙は小動物にとっては強い麻酔のようなものである。大量の煙害は人間にとっても同じことである。



▲性質班、植物班、動物班に分かれ、各班それぞれ仮説を設定し、それを実験による詳細なデータの処理により検証してある力作。今後も煙害の長期的影響を研究していけたらすばらしい。

全国小学校理科研究協議会会長賞

ピー君の観察日記

鳴門教育大学学校教育学部附属小学校
六年 山田 勝幸

●はじめに 学校の帰りひなを拾いました。ひなはほくのかた手にのるぐらい小さくてやまぶき色のうぶ毛しか生えていません。カナブンをさがしている時に、大学前のパチンコやさんのカンパンの下でみつめました。ピーピーと鳴いて、口ばしでほくの手をつついてきました。

家ぞくはだれもとりをかったことはありませんが、とべるようになるまで、かうことにしました。

まず、えさは何をやればいいのか？

何のひなのかな？

このひなが何という鳥にそだつのか、とても楽しみなので、今日からほくは、このひなの観察日記を書くことにしました。

7月13日(抜粋)

ひなの名前をピー君にしました。ピーピーと鳴くからです。

8月5日(抜粋)

ほくがピー君を拾った時はかたてでらくにもって帰れたのに今は両手でだかないとだめです。ピー君は鳥なのでこえすぎるととべなくなるのでは。

●おわりに ピー君のかんさつ日記を書いてよかったと思います。ただ育てるよりも、ますますピー君のことを知ることができてすごくピー君のことをかわいと思うようになりました。ピー君を見ていると、どんな小さな生き物でも、いっしょうけんめい生きているんだな、えらいな、大切にしなければと思いました。



最初、何のひなかわからなかったピー君は、実は伝書ばとだったのですね。自然な動機から生まれた子どもらしく愛らしい作品です。